

令和5年度 第7回梅坪台地域会議 会議録

■ 日時 令和5年10月10日(火) 午後6時50分～午後8時15分

■ 場所 梅坪台交流館 2階 大会議室

■ 出席者

<委員> 大谷 忠司 白井 満 杉浦 隆
鈴木 重久 長江 秀昭 松川 幸江
三岡 英隆 森田 實 諸岡 裕一
山村 史子 山本 孝宏 依田 武人
<交流館> 杉山 浩子(梅坪台交流館 館長)
<事務局> 松下 誠(地域支援課 副課長) 塚田 征弘(地域支援課 担当長)
谷口 明日菜(地域支援課 主事)

■ 内容

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告・協議事項
(1) 地区コミュニティ会議関係について(報告)
(2) 諮問・答申(協議)
- 4 連絡事項

■ 議事内容(要約)

3 報告・協議事項

(1) 地区コミュニティ会議関係について(報告)

○第41回 ふれあいまつりについて

- ・8・10月に会議を行った。
- ・60名近くのボランティアの方に手伝いをしてもらう。
例) オープニングセレモニーで、梅坪台中学校の吹奏楽部に演奏してもらう。
- ・芸能発表、販売や展示などは例年同様に行う。
- ・ラリージャパンのPRとして、ペーパークラフトのヘルメットや写真撮影のスポットを設置する。
- ・誰でも演奏できるストリートピアノを設置する。
- ・初の試みとして、フリーマーケットを実施し、野菜などを販売する予定。
- ・区長会主催の防災フェスタを実施し、はしご車の展示や水消火器体験を行う。

○各委員会について

青少年委員会	年明けの二十歳のつどいの準備を行っている。
福祉・健康委員会	・9/2に終活セミナーを開催した。 ・11/19にはウォーキング大会を行う。
広報委員会	・それぞれの取組に関連した取材を行っている。 ・10/15には、ふれあいだより第155号を発行する。
まちづくり委員会	防災週間にビデオを放映した。

(2) 諮問・答申について(協議)

別紙のとおり

■ 今後の予定

第8回梅坪台地域会議

11月7日(火) 午後7時～梅坪台交流館 大会議室にて

Aグループ

めざす姿

【つながり】

- ・現状として、世代間ギャップや地域社会への帰属意識の低さがあると思う。その中で、「つながる・つくる」のキーワードは妥当だと考える。
- ・日本人同士のつながりだけではなく、外国人との価値観共有も必要である。
- ・「つながる・つくる」はヒトやモノだけではなく、ITなども含めて考えるべきだと思う。
➡デジタル化についていけない高齢者の方を若い世代がサポートする必要がある。
- ・昔は一つの家に2世代、3世代で住んでいたため、家の中で世代間交流ができていたが、現在は核家族化が進んでおり、若い人と高齢者の接点が少ない。
➡若い世代と高齢者のつながりを重視したものにしてほしい。
- ・文科省の方針で部活動地域移行が進められているが、地方自治体が新しい学びの場を提供できるような仕組みを作る必要がある。

まちづくりの基本的な考え方

【全体】

- ・3つの「変える」は非常に良い考え方だと思う。
- 【「個の充足・完結」から「つながり・関係性の拡がり・深まり」重視へ】
- ・それぞれ自分のことで精一杯で、将来の地域の在り方を見据えていない現状があるのではないか。
- 【「ないものを補う」から「あるものを生かす」発想へ】
- ・公共施設の老朽化が進んでいる中で、新たな施設を作るのではなく、スクラップアンドビルドの意識で取り組んでほしい。
- 【「行政がリードするまちづくり」から「多様な主体が楽しむまちづくり」へ】
- ・市役所に頼りすぎな面もあるため、ある程度は住民たちで動きやすい仕組みを作る必要があるのではないか。
- 【見方・思考・行動を「変える」】
- ・生活者レベルにおいて、地域との関係を意識した発想の転換は難しいのではないか。
- ・いろいろな立ち位置でのモノの見方が必要

都市構造

【全体】

- ・高齢者の社会参加促進には、「移動手段の確保」も重要であることから、解決策の一つとしてシェアリングエコノミー（ライドシェア）の考え方を盛り込むべきである。
- ・豊田市は広いため、よく知らない地域が多く、同じ市民という感覚が乏しい。

ミライ実現戦略 2030 の方向性

- ・「安心感」も要素の一つとして重要だと思う。
- ・個人ではなく、皆で協力する心を持った街を実現してほしい

その他の意見

- ・昨今発生している災害は、よく「100年に1度」と言われているが、毎年起きている
➡50年先を見据えた備えが必要だと思う。

Bグループ

めざす姿

<課題・現状>

- ・現在、めざす姿を設定しているものの、伝える力が弱く、空回り感がある。
- ・合併したことで、市街地に住む人でも自然を楽しめる都市になったが、地域の良さを周知できていないと思う。

<求めること>

【つながる】

- ・子どもと地域がつながっているのか、都市部・山間部がつながっているのか大きな疑問がある。
➡これらがつながっているという前提は大きなまちがいである。
- ・子ども会やPTAを取り巻く環境が厳しくなっており、地域住民がその役割の一部を担うことが必要ではあるが、行政も子どもに焦点を当てて、このことについて検討してほしい。
- ・もっとわくわくさせるようなめざす姿であると良い。

例) 長久手市(住み良さランキングで全国1位になっている)

➡定量的・具体的で、目で見えて分かるようなめざす姿を設定することで、市民が「豊田市はここを目指しているんだ。めざす姿に近づくために、自分で何かできることはないかな。」と考えるようになると思う。このように、人々の興味・関心を活力にするやり方もあるのではないかな。

- ・チェンジ・チャレンジの視点から、大企業とタッグを組み、持っている技術を生かした取組ができると良い。(特に地域において)

【多様な価値の創出】

- ・各地域の特性を生かしたアピールができるとよい。
- ・障害のある方でも活躍できるような仕組みがあるとよい。

まちづくりの基本的な考え方

【全体】

- ・つながり感を深める取組が、現状では弱い。
- ・各地域とのつながりがもっとあっても良いのではないかな。

【「個の充足・完結」から「つながり・関係性の拡がり・深まり」重視へ】

- ・地域と小中学校との連携を強化することが求められると思う。

例) 地域学校共働本部に様々な人材を取り入れる

【「ないものを補う」から「あるものを生かす」発想へ】

- ・資源がない地域はどのようにすればよいのか？
➡資源がなく、全方位サービスが難しいのであれば、割り切った考えが必要だと思う。

例) 教育環境は未熟だが、医療体制は充実しているので、そこをさらに強化する

【見方・思考・行動を「変える」】

- ・少子化とよく言われているが、多死社会という現状もあるため、そこにも焦点を当てほしい。

都市構造

- ・東京では常に大規模開発されており、魅力的な町になっている。このことから、「都市構造の実現に向けた方針」の中に「開発」の項目を追加してほしい。例) 大型商業施設の誘致
- ・「コンパクト+ネットワーク」に目新しさがない。
➡ネットワークをオンラインで対応できるようにする。(教育・買い物・医療など)

- ・高齢者・障がい者の方などが、置いてきぼりにならないような都市構造が間違いなく必要。
- ・五ヶ丘・藤岡など、過去に新規宅地造成を行った地域では、その後人口流出・過疎化が進んでいる現状がある。このことから、10、20年先を見据えて検討していく必要がある。

ミライ実現戦略 2030 の方向性

- ・「こども」中心の社会を推進してほしい。
例) 出産一時金の引き上げ
 - ➡経済面で二の足を踏まないように、財源のある豊田市でぜひ取り組んでほしい。
- ・項目の中に「健康福祉」がない。「健康福祉」は「こども」と切っても切れない関係にあるため、ぜひ入れてほしい。

その他の意見

- ・自転車ヘルメットの着用が努力義務となったが、愛知県の着用率はかなり低い。
 - ➡着用率の高い地域もあるため、その地域のノウハウを教わったりするなど、他の良いところをベンチマークして取り入れる姿勢が必要である。
- ・高齢者だけでなく、医療ケアが必要な子どもたちにも充実した医療や看護が提供できるつながりを作っていきたい。
- ・梅坪台地区は、駅周辺に「まちづくり憲章」があり、建築に高さ制限など様々な縛りがある。この縛りが人口増加を妨げる要因になっていると思われるため、「まちづくり憲章」を見直す必要があると思う。

Cグループ

めざす姿

【つながり】

- ・既存にこだわらないチェンジ・チャレンジの視点は必要であるため、その方針で進めてほしい。
- ・「つながりを通じ」とあるが、「既につながりはある」という前提で施策を進めていくのではなく、新しいつながりを作る必要があると思う。
- ・行政は「見えている」前提だが、「見えない困りごと」を抱えている人もいる。それを見つけようとする視点が必要で、常に関心を持つ必要がある。
- ・梅坪台地域は区画整理事業によって、より良くなっていったが、今後は安定的な成長を前提とした街づくりが必要で、その際「自助」という視点も大切だと思う。

まちづくりの基本的な考え方

【「ないものを補う」から「あるものを生かす」発想へ】

- ・空き家問題などがある中で、新しい建物を作るだけではなく、作ったその先を考える必要がある。

【「行政がリードするまちづくり」から「多様な主体が楽しむまちづくり」へ】

- ・多様な主体が楽しいまちづくりをすることに対して、行政は支える姿勢が必要だと思う。

【見方・思考・行動を「変える」】

- ・ライフスタイル変わってきた中で、既存の子ども会、高齢者クラブや自治区を変えていくべきである。

都市構造

- ・梅坪台は良いまちづくりの成功例だと思うため、「梅坪台でこうしてほしい」という意見はない。しかしながら、区画整理を行った四郷や浄水など他の地域を見てみると、まちづくりへの意識が本当に育っているのかと感じる。「コミュニティを作っていくんだ」という視点を持つべき。
- ・仕事をする場所と生活する場所をつなぐ交通の整備が大切
- ・例えば、東梅坪町や京町など、既存の自治区を統廃合し、「梅坪台支所」のような起点を作るのも面白いのではないか。

ミライ実現戦略 2030 の方向性

- ・「変える」よりも「考える」視点が必要
- ・子どもたちへの先行投資の考えが必要であり、教育を通して梅坪台地域を魅力ある街にし、誇りを持ってもらう。
- ・「幸福感向上」を最終目標とし、それを計画の中で明確にするべき。

その他の意見

- ・「VUCA」や「ウェルビーイング」など、アルファベット・カタカナを多用しており、分かった気になっているのではないか。ひらがな中心で表現してほしい。
- ・施設の老朽化が財政を圧迫している現状は、3つの「変える」視点を持って考えるチャンスだと思う。
- ・豊田市での地産地消という考えも大切である。